



患者 年齢20代 女性
修復箇所 1|1

主 訴 「前歯をきれいにしたい」
1|1 においては翼状捻転の改善と唇側傾斜の緩和を希望
修復材料 ノリタケカタナKT12、セラビアンZR

湯浅 直人

大谷歯科クリニック
東京都台東区下谷2-3-2 ルックハイツうぐいす谷 1F TEL 03-3871-1664
青山ホワイトリア
東京都港区南青山3-15-9 2F TEL 03-3402-4618

「色の調和」と「天然歯らしさ」のバランス

上顎側切歯および犬歯の旧充填部分を除去後、広範囲にコンポジットレジン直接充填を行っている。支台歯である1|1は、フィニッシュラインの歯肉縁下削除量と唇側の築盛スペースを十分に有し、歯質も変色していない。そのため、自然感のある色調自体は通常どおりに再現でき、クラウンカントウアの変化によるガムラインの改善も可能である。着目すべきは、目標歯となる隣在歯の唇側面に充填されたコンポジットレジンと残存歯質のキャラクターとがあいまって、表層付近で一般的な天然歯エナメル質とは異なるコントラストを呈していることである。この特徴を模倣しつつ、どのようにして天然歯らしさを表現するかが製作の要になると考えた。

技工ステップ

担当歯科医師 大谷歯科クリニック：大谷一紀先生



01 初診時。



02 根管治療後、ファイバーポスト+コンポジットレジンによる支台築造、形成が終了した状態。



03 ボディ・エナメル上のインターナルステインによるキャラクターライズが終了した状態。



04 その後、エナメル質に相当する部分を再現し、目標歯の構造・色調に調和させる。図は模型上での完成。



05 口腔内装着後1週間の状態。



06 同、黒バック。



株式会社リープ・セラミック・アーツ
代表取締役

伊藤 竜馬

住所 東京都大田区新蒲田1-13-2 塩田商事本社ビル301B号
TEL 03-6715-9141

カタナジルコニアのカラーバリエーション

フレームカラー	KT10	KT11	KT12	KT13	KT14	KT15	KT16	KT17	KT18
CZ用対応シート	EW00 EW0 EW 全ての色調(+SB)	NW0	EWY NW0.5 A1 NP1.5 B1 B2	A2 A3 NP2.5	A3.5 A4 (+SBA)	C1 D2 (B1) (B2)	B3 B4	C2 C3 C4 (+SBC)	D3 D4 (+SBD)

※SB:シェードベース

カタナジルコニアフレーム臨床上の優位ポイント

カタナジルコニアフレームの特長の一つとして、フレームカラーが9種類とバリエーションに富んでいることが挙げられる。このフレームへの着色は、ジルコニアブロックの製造段階で着色されるため、色ムラが無く、コーピング調整後も色の変化が少ないことが優位点である。そのため、築盛後も色調の安定性に優れ、明度、彩度の統一性に優れている。

私はこのカラーフレームを臨床では前歯部多数歯修復などで色の統一感を出したいときに使用している。

また、築盛用ポーセレンはセラビアンZRをジルコニアの症例全てで使用しているが、ジルコニア築盛用陶材はジルコニアフレームとのマッチングが非常に重要である。

ノリタケカタナ+セラビアンZRの組み合わせでは、これまでの私のラボでのジルコニアの症例において、製作時のトラブルフリーはもちろん、口腔内セット後にフレームからのポーセレンの剥離が起こったケースは1ケースも無いことがマッチングの高さを証明していると思っている。

症例1

患者 年齢20代 女性
修復箇所 上顎 3+3

臨床写真提供 Nデンタルクリニック中尾歯科:中尾雅英先生



01 KT11を使用。患者は限りなく白く、透明感のある歯を希望したためベースとなるボディ陶材はNW0とした。



02 模型上の完成。全ての支台はメタルコアのため、模型上支台前面をシルバーに着色後、トライインペストで色調確認している。



03 口腔内セット後。唇側クリアランスの築盛量の差もある症例だが、色調、明度の統一感が達成されている。

症例2

患者 年齢20代 女性
修復箇所 1]

臨床写真提供 医療法人社団友伸会サンライズ蒲田歯科:青木美咲先生



01 透明感の再現のためKT10を使用。ボディへのインターナルステインの状態。



02 模型上完成。



03 口腔内セット後。天然歯の透明感が再現されている。